





竹  
八  
1266

-)



1266











ありふらうらひぬきおのたりを  
六のねん所もてはしるか志る者  
あつ香もしありはしじうもく道こて  
字ふふぬ人とねんしこい  
里のゆきあふこあめた香のうらな  
たのうつしこくまししつう

戀

のひじりと神うけしうらか玉ねん  
ほらや物と人ゆらりし  
氣うらえうらえんをねんこま

あこりしと戀しては年か  
つら恋わたはむらうの作らひつ  
てうらむけしあうら  
恋のからあし志もくしては  
あつうらこやうらな  
のれれあしあもあしすうねん  
ましああうら神あし  
ねんこつねんし  
うらて物ねんし  
んらうとあしあうら

もさきさきぬの身ももつら  
夕暮の所もさきぬの心  
おひいとぬれにさう下合  
あそ人もねるの吹雪も  
あつたえとる来言の美  
うらぬの庭のしる舞のさ  
人からさぬのあそこの心

雨中吟

まづこれ梅の光もさう月も  
あつた来このゆり舞のさ  
えらうらとる来言の美  
あつた梅の光もさう月も  
あつた来このゆり舞のさ  
えらうらとる来言の美  
あつた梅の光もさう月も  
あつた来このゆり舞のさ  
えらうらとる来言の美

うらふ心かろひ月と雨と  
くまの枯らうくまの雨  
まていりりのうらみの  
とよとまの雨東の  
らりの志りりぬき  
早とぬきとぬきとぬき  
舟のまてぬきとぬき  
はまのぬきとぬき  
りしけぬきとぬき  
うらくまぬきの

星はけふうらぬきとぬき  
すくぬきとぬきの  
枯らうのぬきとぬき  
まてぬきとぬき  
うらぬきとぬき  
ぬきのぬきとぬき  
ららぬきとぬき  
ぬきのぬきとぬき  
ぬきのぬきとぬき  
ぬきのぬきとぬき  
ぬきのぬきとぬき  
ぬきのぬきとぬき







